

今年の2月頃から、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、多数の死者はもちろん、都市封鎖や国や人種の分断など、今なお国際社会に深刻な影響を与え続けています。日本においても、緊急事態宣言が出されたことで日常生活が一変し、普段当たり前のように行われていた人と人の活動をも自粛を余儀なくされています。

皆さんも、3月初めから学校が臨時休業となつて、中学時代の友達とも十分なお別れをする機会を持ってないまま卒業を迎えたことでしょう。高校に進学しても、入学式はよろか学校に登校することもできず、新しい友達との出会いや部活動や学校行事など、高校生活のスタートラインにも立てず不安な日々を過ごしていたことかと思えます。

それでも、医療関係者の皆様の献身的な救護活動を始め、福祉・公衆衛生関係者や各種事業者の皆様、それらを支援しようとする人の輪、もちろん皆さんの家族や皆さん自身がこの感染症にかからないための真摯な対応等、多くの人々のお陰で、感染者数も減少してきて、本日こうして新入生全員を一堂に迎えることができました。

ここに改めて、言わせていただきます。二百七十八名の新入生の皆さん、入学おめでとつございます。

皆さんは、大変厳しかった入学選抜試験にみごと合格し、本校生徒の一員となりました。教職員はもちろん在校生一同、皆さんの入学を心より歓迎いたします。

これからの三年間、本校での生活をスタートするにあたって、本校の教育方針をしっかりと理解し、心に刻んで学校生活を送ってほしいと思います。

私達は、皆さんがこの変化の激しい社会を、精神的にも肉体的にもたくましく生き抜いて、社会で活躍できる人材に成長してほしいと願っています。そのためには、本校のモットーである、「時を守り、場を清め、礼を正す」といった規範意識をベースに、相手への思いやりや学び続ける力などを一つ一つ身につけて、課題解決に向けて懸命に努力することが必要です。

このコロナウィルス感染症がまさにそうです。この誰もが想像することができなかった状況を共に経験し、乗り越えようとしている仲間として、お互い励ましあいながら共に成長していってくれれば、こんなにうれしいことはありません。

皆さんご承知の通り、本校では、「誇りを胸に」という横断幕を正面階段に掲げており、本校生徒は、いかなる時も意識するよう話をしています。

自分に誇りを持つためには、どんな小さなことでもいい

から、自分のやるべきことを決めてまず行動することです。それによって何らかの変化が生まれ、自分も変わっていきます。その積み重ねが自信や結果につながって、誇りが持てるようになるのです。どうか自ら考え、行動できるようになってください。また、自分はこうありたいと、こういう目標があってそれを実現したいと、本心から念じて取り組んでください。そうすることで、皆さんの夢や希望がかなうのです。夢に向かって懸命に努力しようとする皆さんを、我々教職員は勿論、在校生全てがあなた方を応援します。

出発点は、皆さん一人一人の今の自分にあるということ。さあ、一步一步と前進して行きましょう。

最後に保護者の皆さまにおかれましては、入学式でのお子様の晴れの姿をお見せすることができず申し訳ありませんでした。今後とも、本校の教育活動にご理解ご協力を賜りますことを申し上げ、挨拶とかえさせていただきます。

令和二年六月四日

東京都立大崎高等学校校長 豊岡耕一郎